広報展示室 Koho Gallery

第13回

開館６周年記念特別展
「広重を生んだ画派 歌川派の時代展」前期

歌川豊広「御殿山花見図」絹本着色　東京国立博物館所蔵
Image:TNM Image Archives　Source:http://TnmArchives.jp/

唱歌「蛍の光」中の「わがしのおん」。小学生の時には、意味も分からず頭のなかでは平仮名のまま、唄(うた)っていませんでしたか？恥ずかしながら私もそのクチです。全国にはこれを「和菓子の恩」と「翻訳(ほんやく)」している子どもも少なくないでしょう。

今回ご紹介するのは、歌川広重の師匠(ししょう)、歌川豊広（１７７４？－１８６１）の肉筆画です。品川の御殿山へ花見に来た二人の美人を描いています。たおやかな白い指先にも表情が宿り、女性の楚々(そそ)としたたたずまいを感じさせる作品です。

実は広重、当初は豊広の兄弟弟子にあたる豊国（役者絵で大人気の浮世絵師でした）の下に入門しようとしたのですが、弟子があまりに多いため、入門を断られてしまったというのです。そのあと、に豊広に入門を乞(こ)うたとの逸話(いつわ)が残っています。豊広は、役者絵はあまり描かず、本の挿絵(さしえ)や肉筆画、墨摺絵(すみずりえ)といった分野で活躍していました。豊国のような派手さはないけれども、着実な人気を保っていた絵師です。

世に迎合(げいごう)せず、堅実(けんじつ)で我が道を進んでいるような彼の作品を見ていると、広重も豊広の下だからこそ伸びた才覚があったのだと思わずにいられません。となると、現在、広重がこれほどまでに有名なのも、豊広先生のおかげ。

なんにせよ、我が師にしても和菓子にしても、恩は忘れないようにしたいものです。

※この作品は開館６周年記念特別展「広重を生んだ画派歌川派の時代展」前期（～10月29日）に出品されています。

（那珂川町馬頭広重美術館　学芸員　津田　卓子）

自然の温もりを描く

身近に咲く草花を、アクリル絵具を使って、木材や石に描く作品が多い高堀三枝子さん（久那瀬）。

芸術の秋を身近に感じさせてくれる素朴な温もりが、伝わってきます。今は、来年の展示に向けて新作を制作しているところです。

ミニギャラリー

「たんぽぽ」ケヤキ　縦60㎝　横50㎝

「フジと曼殊沙華」サクラ　縦30㎝　横90㎝

No.13　平成18年10月10日号　●編集／企画財政課　☎0287-92-1114　Fax0287-92-1316
●発行／那珂川町役場／栃木県那須郡那珂川町馬頭409　URL http://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp

R100 PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は古紙配合率100%の再生紙、植物性大豆インキを使用しております。